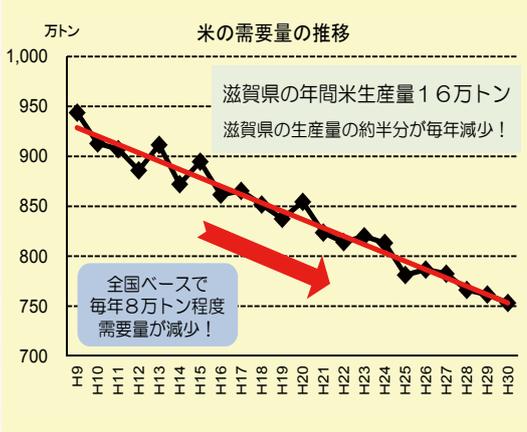


平成30年産以降も 生産調整は必要です！

平成30年産米より、国による生産数量目標の配分や、米の直接支払交付金(10アール当たり7500円)が廃止されますが、主食用米の需給バランスをとるために、引き続き、生産調整に取組む必要があります。

米の一人当たりの年間消費量は、昭和37年度をピークに一貫して減少傾向にあり、118kgの米を消費していたのが、平成28年度には、その半分の54kgにまで減少しています。

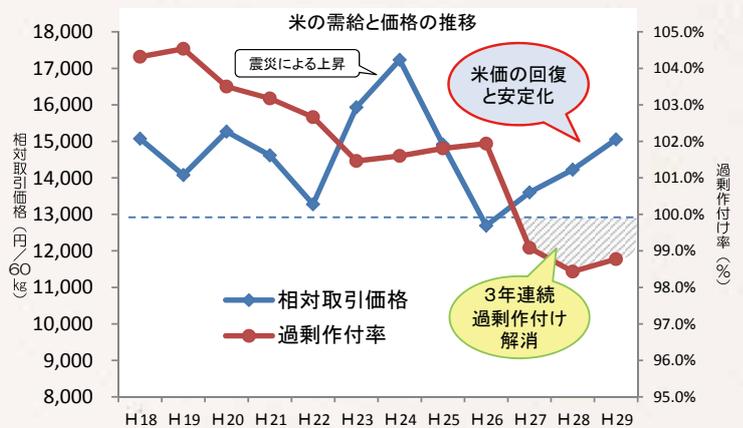
全国の米の需要量(消費量)が毎年8万トンずつ減少する中で、需要に見合った計画生産を実施せずに、主食用米を作り続けると生産過剰となり、米価が大幅に下落することが懸念されます。



過剰作付解消で米価回復！

平成29年産米の主食用米の作付面積は137万ヘクタールとなり、生産数量目標138.7万ヘクタールを1.7万ヘクタール下回り、過剰作付が解消されたことから、29年産米の相対価格は3年連続で上昇しました。

このことから、主食用米の過剰作付が解消され、適正な在庫量となり、米価の回復と安定化が図られました。



これまでどおり生産目標 を示し需要に応じた米づく りを目指します！

需要に応じた主食用米の生産が確実に実施されるため、これまでの米の生産数量目標に変わる指標として、国からの情報提供を基に、地域農業再生協議会から「生産目標」を示します。

12月に地域農業再生協議会から提示された「生産目標」に基づいた、主食用米の生産調整を実施してください。

主食用米以外には、麦・大豆や水田野菜並びに、飼料用米・加工用米等の非主食用米の取組みにより、水田のフル活用を行う必要があります。

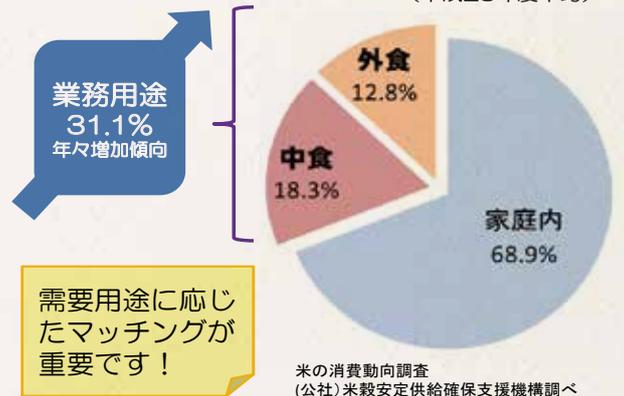
経営所得安定対策は、 平成30年以降も継続されます。

水田活用の直接支払交付金の戦略作物への交付

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

地域の实情に応じて戦略作物の生産性向上や、地域振興作物の生産に向けた取組みを支援するため「産地交付金」も継続されます。

主食用米の消費内訳
(平成28年度平均)



米の消費動向の変化 業務用途の消費増加！

米の消費動向は、近年の单身世帯の増加など世帯構成の変化や、女性の社会進出による共働き世帯の増加など、社会構造の変化により、食の簡便化志向が強まっており、米を家庭で炊飯する割合が年々低下する一方で、中食(惣菜やコンビニ弁当等)や、外食の占める割合は年々増加傾向にあります。



【需要に応じた計画生産と水田フル活用のイメージ】

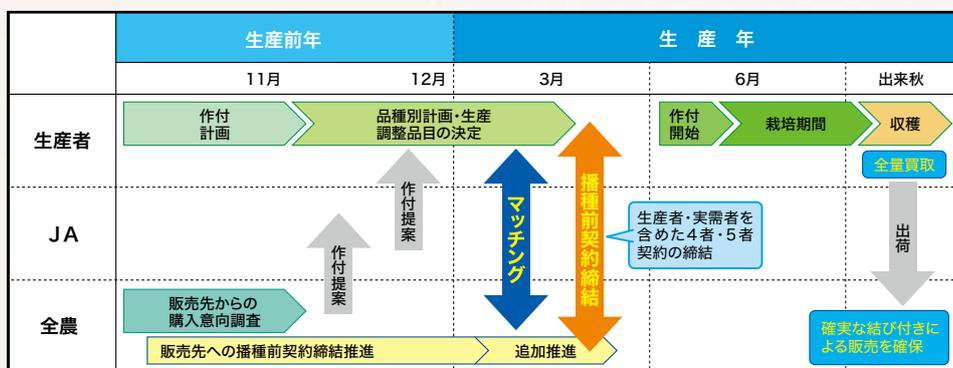


需要に応じた生産を進めるため、需要動向を把握し、早期に販売先の確保を行い、売れ残りを出さないことが重要です。

JAでは、実需者のニーズに対応した生産のマッチングを行い、確実に集荷・販売を行う販売方式（マーケットイン）を行い、販売先との播種前契約や複数年契約を基に、生産者の皆様が安心して営農が継続できる環境づくりと、所得増大を図ってまいります。

需要に応じた水田フル活用の取組みと計画生産の実践！

【マーケットインに基づく品種別作付提案と播種前契約のスケジュール】



実需者からのニーズが高く、業務用途として需要のある「キヌヒカリ」「日本晴」「ゆうだい21」を重点推進品種として位置づけ、実需者との事前契約（播種前契約）により販売先を早期に確保し、安定的に有利販売を行います。

マーケットインに基づく品種別作付提案の取組！

③契約「ゆうだい21」作付提案

“ゆうだい21”とは

宇都宮大学が開発した水稻品種で、2010年1月に品種登録された良食味品種です。
販売先は、(株)神明を通じてLAWSONの店内キッチン「まちかど厨房」指定品種として契約販売されます。

“ゆうだい21”の特徴

- (コシヒカリとの比較)
- ・出穂は2日、成熟は4～5日遅い。
 - ・草丈10cm、穂長5cmほど長い。
 - ・1穂粒数は多いが穂数はやや少なく、登熟歩合はやや低い傾向。
 - ・収量は同等かやや低い。
 - ・いもち病にやや強い
 - ・刈遅れても品質低下が少ない。
 - ・食味はコシヒカリ並み、多施肥条件でも食味は低下しにくい

栽培要件等

- ・取組面積30a以上
- ・契約栽培により生産物は全量出荷
- ・調製網目1.80mm以上
- ・育苗センター苗供給可
- ・カントリー荷受可（長浜北部荷受センター）

参考価格14,000円（紙袋・60kgあたり）
29年産米ゆうだい21買取価格（1等・持込奨励を含む）

①複数年契約“きらめきキヌヒカリ”作付提案

②複数年契約“あっぱれ日本晴”作付提案

実需者が求める汎用性が高く業務用米に対応した“キヌヒカリ”“日本晴”の増産ニーズに応えるため、低コスト生産・多肥栽培などの生産体系による目標収量10俵を確保し、販売先との複数年契約による保証価格での買上により、安心して販売ができる環境づくりと、安定的な農家所得が確保できる取組みを行います。

契約条件・期間

- 3カ年の複数年契約とし契約した出荷契約数量を3カ年確保し継続してください。
- 契約数量は60袋以上とします。（取組面積には、飯米・縁故米・水田活用米穀を含めないください。（複数年契約した生産者のみ対象となり単年契約は対象外となります。）
- 栽培要件はJA米要件と同様とします。
- 買取保証価格を設定し契約期間中の販売価格を保証します。
- 出荷実績が契約数量以上（上限20%）に対して、加算金を別途追加払い致します。

低コスト生産・多収栽培・複数年契約により安定的な所得向上を図りませんか？

複数年契約品種	苗供給	カントリー
キヌヒカリ	5/上頃	—
日本晴	5/上頃	近江・長浜

詳しくは、最寄りの統括支店営農担当者または、TAC・営農経済渉外員までお問合せください。